

New Horizon 第6回 Lessons

Lesson 6-1: 疑問詞② (Where / When / Why / How many ○○)

ここでは「どこで?」「いつ?」「なぜ?」「どれくらい (たくさん) ○○」という意味の疑問詞について学んでいきます。

これらの疑問詞も文頭で使われ、その後に疑問文が続く形 (疑問詞+疑問文?)

で文が作られます。詳しく見ていきましょう。

<今回登場する疑問詞とその意味>

Where = どこ / どこで / どこに **When** = いつ **Why** = なぜ

How *many ○○ = どれくらい (たくさん) ○○ (○○は可算名詞の複数形)

*many は、「たくさん」の意味。ただし、可算名詞にしか使えない。

【疑問詞を使った疑問文：基本の形】

疑問詞 + 疑問文?

<例> Where is she? — She is in room.

(彼女はどこにいるのですか。 — 彼女は彼女の部屋にいます)

When is your birthday? — It is May 2nd.

(あなたの誕生日はいつですか。 — 5月2日です)

Why are you here? — Because I have a class.

(なぜあなたはここにいるのですか。 — なぜなら授業があるからです)

How many pencils do you have? — I have five ¹(pencils).

(あなたは、何本の鉛筆を持っているのですか。 — 私は5本 (の鉛筆を) 持っています)

Where is your classroom? — It is ²on the second floor.

(あなたの教室はどこですか。 — 2階にあります)

1. 何をたずねられているのか明らかな場合 (ここでは「鉛筆の数」)、不要な部分 (ここでは pencils) は省略されることが多い。
- 2 「○○階にある」という場合、on the ○○ floor となる (○○には、first, second, third, fourth, といった序数が入る)。イメージとしては「○○階に乗っている」ので、前置詞に on が使われ「どの建物の○○階」と限定されているため、the がつく。

【疑問詞を使った疑問文の作り方】

ステップ 1: 疑問詞の部分 (どこ/ いつ など) に「**適当な単語**」を入れて疑問文を作る。

ステップ 2: 入れた「**適当な単語**」を**疑問詞に戻す**。

ステップ 3: 疑問詞を**文の先頭に持ってくる**。

<例 1: 彼女はどこにいますか>

ステップ 1: 疑問詞の部分 (どこ) の部分に「**適当な単語**」を入れて疑問文を作る。

「どこに」の部分「**彼女の部屋に**」に変える

→ 「**彼女は彼女の部屋に**いますか」

Is she in her room?

ステップ 2: 入れた「**適当な単語**」を**疑問詞に戻す**。

in her room → **where** に戻す。

Is she where?

ステップ 3: 疑問詞を文の先頭に持ってくる。

Where is she?

<例 2: あなたは、何本の鉛筆を持っていますか>

ステップ 1: 疑問詞の部分 (何本の鉛筆) の部分に「**適当な単語**」を入れて疑問文を作る。

「何本の鉛筆」の部分「**5本の鉛筆**」に変える

→ 「**あなたは5本の鉛筆**を持っていますか」

Do you have five pencils?

ステップ 2: 入れた「**適当な単語**」を**疑問詞に戻す**。

five pencils → **how many pencils** に戻す。

Do you have how many pencils?

ステップ 3: 疑問詞を文の先頭に持ってくる。

How many pencils do you have?

【ポイント!】

1. 何をたずねているか明らかな場合は、疑問詞だけ使われる場合もある

文脈から何をたずねているか推測できる場合、疑問詞だけを用いて質問する場合があります。

<例> I'm really happy! — Really? Why? (Why are you happy? でなくても OK)

(私はとても嬉しいです。—本当に?なぜですか)

2. Where are you from? とはいうが、Where are you in? とは基本的に言わない

「あなたは、どこにいますか?」という場合、Where are you in? とは言わず、Where are you? だけとなります。これは、in をつけなくても『あなたのいる場所をたずねる言い方』のため、in をつける必要がないからです。しかし、「あなたはどこ出身ですか?」という場合、Where are you? では、通じません。そのため、Where are you from? と from をつける必要があります。

2. 誕生日など「日にち自体」を訪ねられている場合には on はつかないので注意

When is the concert? (コンサートはいつですか) という疑問文の答えとして、It is on May 2nd. (それは、5月2日になります) というように“on 日にち”という表現がされます。これはあることが「その日に行われる」という意味のため、on が使われます。しかし、When is your birthday? (あなたの誕生日はいつですか) という疑問文の場合、日にち自体をたずねているので、答えは It is May 2nd. (5月2日です) となります。紛らわしいですね。『その日に』と言う場合は、“on 日”となる」と覚えましょう。

3. Why の疑問文の答えは、Because ～ (なぜなら ～) の形で答えることが多い

Why～? (なぜ～ですか) という疑問文では、Because + 文 (なぜなら + 文) の形で答えられる場合が多いです。

<例> Why is he here? — Because he is our teacher.

(彼はなぜここにいるのですか — なぜなら、彼は私たちの先生だからです)

Lesson 6-2: want to 一般動詞

ここで学ぶ“want to ～”は「～したいです (したいと思っています)」という意味で、基本的な形は「主語 + want to 一般動詞 + ～。」となり、「主語は、～したいです (したいと思っています)」という意味になります。また、一般動詞の文なので、否定文の際は do not (don't) が want to の前に足され「主語は、～したくないです (したくないと思っています)」という意味になり、疑問文の際は、Do や 疑問詞 + do が文頭に足され「主語は、～したいのですか (～したいと思っているのですか)」といった意味になります。

【wan to 一般動詞：基本の形】

<肯定文> 主語 + want to 一般動詞 + ～.

(主語は～したいです) (主語は～したいと思っています)

<否定文> 主語 + do not (don't) want to 一般動詞 + ～.

(主語は～したくないです) (主語は～したくないと思っています)

<疑問文> Do + 主語 + want to 一般動詞 + ～?

(主語は～したいのですか) (主語は～したいと思っているのですか)

<例> I want to play soccer today.

(私は今日サッカーをしたいです)

They do not (don't) want to study English.

(彼らは英語の勉強をしたくないと思っています)

Do you want to practice in the music room? — Yes, I do.

(あなたは音楽室で練習したいですか。 — はい)

What do you want to eat? — I want to eat rice and miso soup.

(あなたは何を食べたいですか。 — 私は、お米と味噌汁を食べたいです)

【ポイント！】

1. want だけで使う場合は「ほしい」という意味になる

want は「欲しい」という意味の動詞で、to をつけなくても使うことができます。例えば「私は3本の黒いペンが欲しいです」という文の場合、want だけが使われます。何でも、want to の形になるわけではないので注意していきましょう。

<例> I want three black pens. <I want to three black pens. = ×>

(私は3本の黒いペンが欲しいです)

2. What などの疑問詞がつく場合は、疑問詞 + 疑問文？

他の疑問文同様、want to の分に What などの疑問詞がつく場合は「疑問詞 + 疑問文？」の形になる。

<例> Why do you want to use my pen? (なぜあなたは私のペンを使いたいのですか)

3. Do you want to ~? は、何かに誘う時にも使われる

Do you want to ~? は「～したいですか」と主に訳されますが何かに誘う時にもよく使われる表現です（「～しませんか」といったニュアンス）。

<例> Do you want to play soccer tomorrow? — *Sounds nice.

<明日サッカーをしたいですか（サッカーをしませんか） — いいですね>

*Sounds nice.は、That sounds nice. の That が省略された形。Sounds good. や Sounds great. といった表現もよく使われる。

4. 3つ以上のものを並べて言う時は、A, B, and C や A, B and C

3つ以上のものを並べていう時は、カンマ（,）で区切り、最後のものの前に and を足す形がよく使われます。

<例> I play soccer, tennis, and basketball. (私はサッカー、テニス、バスケットをします)

また、最後から2番目の単語の後のカンマを省略するケースもよく見られます。

<例> I play soccer, tennis and basketball. (私はサッカー、テニス、バスケットをします)

【want to 一般動詞を使った文：作り方】

ステップ 1: 「～したい (と思っています)」の部分を除いて文章を作る。

ステップ 2: 一般動詞の前に **want to** を足す。

<例 1: 私は今日サッカーをしたいです>

ステップ 1: 「～したい (と思っています)」の部分を除いて文章を作る。

「私は今日サッカーをします」

I play soccer today.

ステップ 2: 一般動詞の前に **want to** を足す。

I want to play soccer.

<例 2: 彼らは英語の勉強をしたくないと思っています>

ステップ 1: 「～したい (と思っています)」の部分を除いて文章を作る。

「彼らは英語の勉強をしません」

They do not (don't) study English.

ステップ 2: 一般動詞の前に **want to** を足す。

They don't want to study English.

Lesson 6-3: want to be

次に学ぶのは「～になりたい (～になりたいと思っています)」という意味の“want to be” についてです。これは be 動詞の文章に「～したい」という意味を足した形になります。例えば I am a teacher. (私は先生です) という be 動詞の文章を「私は先生になりたいです」という意味に変える場合、I want to be a teacher. という形になります。ここで登場する be は、am/ is / are といった be 動詞の原形 (元の形) と言われ、be 動詞の役目を果たしています (want to am / want to are / want to is とは、言えない)。しかし、文章自体は「一般動詞の文」として扱われるため、否定文の時は、do not (don't) が使われ、疑問文の時は (疑問詞+) Do ~? の形になりますので注意してください。

【wan to be : 基本の形】

<肯定文> **主語 + want to be + ~.**

(主語は～になりたいです) (主語は～になりたいと思っています)

<否定文> **主語 + do not (don't) want to be + ~.**

(主語は～になりたくないです) (主語は～になりたくないと思っています)

<疑問文> **(疑問詞 +) Do + 主語 + want to be + ~?**

(主語は～になりたいのですか) (主語は～になりたいと思っていますのですか)

<例> I want to be a teacher.

(私は先生になりたいです)

They do not (don't) want to be my students.

(彼らは、私の生徒にはなりたくないと思っています)

Do you want to be smart? — Yes, I do.

(あなたは賢くなりたいですか。 — はい)

【ポイント！】

「want to 一般動詞」か「want to be」のどちらを使うか見分けるポイントは「～したい」という部分を除いた際に、一般動詞があるかないかです。例えば「私はサッカーをしたいです」という文の場合、「～したい」という部分を除くと「私はサッカーをする」となるので「want to 一般動詞」が使われます。また「私は先生になりたいです」という文の場合「～したい」という部分を除くと「私は先生です」なので「want to be」が使われます。

【want to 一般動詞を使った文：作り方】

ステップ 1: 「～したい (と思っています)」の部分を除いて be 動詞の肯定文を作る。

ステップ 2: be 動詞の前に want to を足し、be 動詞を be に変える。

<否定文の場合>

ステップ 3: want to の前に do not (don't) を足す。

<疑問文の場合>

ステップ 3: 文の先頭に (疑問詞 +) Do を置き、最後を ? に変える。

<例 1 : 私は先生になりたいです>

ステップ 1: 「～したい (と思っています)」の部分を除いて be 動詞の肯定文を作る。

「私は先生です」

_____ I am a teacher.

ステップ 2: be 動詞の前に want to を足し、be 動詞を be に変える。

_____ I want to be a teacher.

<例 2 : 彼らは私の生徒にはなりたくないと思っています>

ステップ 1: 「～したい (と思っています)」の部分を除いて be 動詞の肯定文を作る。

「彼らは私の生徒です」

_____ They are my students.

ステップ 2: be 動詞の前に want to を足し、be 動詞を be に変える。

_____ They want to be my students.

ステップ 3: want to の前に do not (don't) を足す。

They do not (don't) want to be my students.

<例 3 : あなたは賢くなりたいですか>

ステップ 1: 「～したい (と思っています)」の部分を除いて be 動詞の肯定文を作る。

「あなたは賢いです」

You are smart.

ステップ 2: be 動詞の前に want to を足し、be 動詞を be に変える。

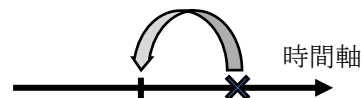
You want to be smart.

ステップ 3: 文の先頭に Do を置き、最後を?に変える。

Do you want to be smart?

Lesson 6-4: 前置詞② (before / after / near / at)

1. before = ～の前に・は <ある時点から前といったイメージ>

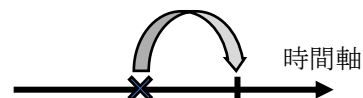


<例>

I wash my face before breakfast. (私は、朝食の前に私の顔を洗います)

I study English before dinner. (私は、夕食の前に英語を勉強します)

2. after = ～の後に・は <ある時点から後といったイメージ>



<例>

We do our homework after dinner. (私たちは、夕食の後に私たちの宿題をします)

I have time after 7:00. (私は、7:00 以降は時間があります)

【ポイント!】

before / after の文章の作り方に注意

before / after の文章の場合、日本語と順番が入れ替わります。

日本語の順番：私は朝食の前に私の顔を洗います。

英語の順番：私は私の顔を洗います。朝食の前に。

< I wash my face before breakfast. >

日本語の順番：私たちは夕食の後に私たちの宿題をします。

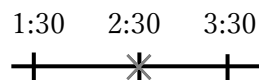
英語の順番：私たちは私たちの宿題をします。夕食の後に。

< We do our homework after dinner. >

そのため、文頭から日本語を英語にすれば文が完成するわけではないので、文の流れをしっかりと把握する必要があります。

3. **at** = (～時) に / (～時～分) に / ～に・で (場所)

<ピンポイントで「ここ！」という地点を指すイメージ>



信濃町駅 四谷駅 市ヶ谷駅

<例> I start my class at 2:30. (私は私の授業を2時30分に始めます)

We are at Yotsuya *Station. (私たちは四谷駅にいます)



*「〇〇駅」という場合、1つの固有名詞と考えられ、基本的に〇〇 Station と s も大文字になるので注意。コンサートホールなども、例えば Sakura Hall (サクラホール) と Hall の H も大文字で書かれることが多い。

【ポイント！】

時間を表す副詞やフレーズは単位の小さいものから

時間を表す副詞や前置詞の含まれたフレーズなどが続けて使われる場合は、基本的に単位の小さいものが前にくる。

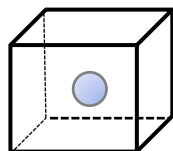
<例> I have a class from 3 o'clock today. (私は今日の3時から授業があります)

【in と at の違い】

in = その場所の「中」にいる (ある) 時

at = その場所の「一点 (中とは限らない)」にいる (ある) 時

<例> どこにいるの？



I am in my house.

<私は家の中にいます>



I am at my house.

<私は家にいます>

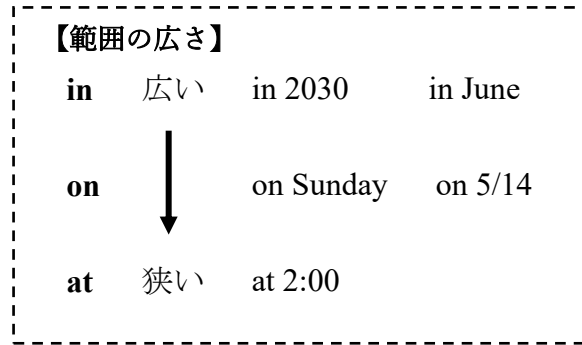
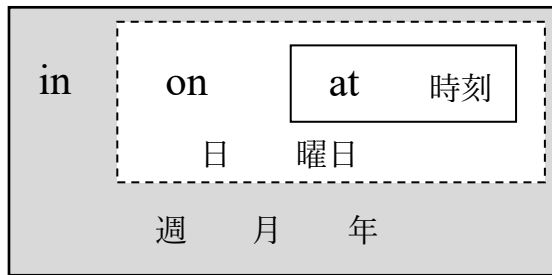
(庭かもしれないし、家の中かもしれない)

また「私は駅にいます」という場合、

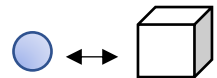
I am at the station. (駅の中にいるかもしれないし、駅の外にいるかもしれない)

I am in the station. (駅の建物の中にいる)

【in/on/at と時間の関係】



4. **near** = (空間・時間的に) 近く / 近い <お互い近い距離にあるイメージ>



- <例> My house is near the station. (私の家は駅の近くです)
 I live near our school. (私は、私たちの学校の近くに住んでいます)

Lesson 6-5: 頻度の言い方

ここで学ぶのは、「1日に1度」「1週間に5日」のような頻度を表す言い方です。基本となる形は

数 + 単位 + 期間

となります。例えば「1日に3回」なら three times a day となり、「週に2本のボトル」なら two bottles a week というようになります。

【頻度の言い方：例】

数	+	単位	+	期間
one		*time(s) (回)		a day
two		day(s) (日)		a week
three		class (授業)		a month

*1回 / 2回 という場合は、one time / two times ともいえるが、**once / twice** を使うのが一般的。

- <例> We play soccer three days a week. (私たちは週に3日サッカーをします)
 I teach 20 classes a month. (私は月に20の授業を教えます)
 I *see him twice a day. (私は彼に1日に2回会います)

*see には「見る」だけでなく「会う」という意味もある。

Lesson 6-6: 様々なフレーズ②

1. hard (副詞) = 熱心に / 一生懸命に

<例> They study hard. <彼らは熱心に勉強します>

〔補足説明〕

hard は「難しい」「硬い」という意味もある（形容詞）。また、very hard とすると「とても熱心に」「とても難しい」「とても硬い」という意味になる。

2. *be excited (about ~) = (〜について)ワクワクしている / 興奮している *be = be 動詞

<例> I am excited about the soccer game. <私はサッカーの試合にワクワクしています>

3. That's all. = それで全部です / これでおしまいです / それだけです

<例> That's all. Thank you very much. <これでおしまいです。ありがとうございました。>

〔補足説明〕

That's は、That is の短縮形。疑問文にして Is that all? とすると「それで全部ですか」という意味になる。

4. Good luck. = 幸運を祈っています

<例> A: I have a big test today. B: Really? Good luck.

<A: 私には大きなテストがあります。 B: 本当? 幸運を祈っています>

〔補足説明〕

テストの前や、試合の前などに会った時の別れの挨拶などによく使われる。しかし、できそうにないことを相手が言った際に皮肉の意味も込めて Good luck. と使われることもあるので（「まあ、せいぜい頑張れよ」といったニュアンス）、使う時には注意が必要。

5. someday = いつか

<例> Someday I want to be a good soccer player.

<いつか私は良いサッカー選手になりたいです>

〔補足説明〕

someday 文の先頭か最後に主に足される。